

としよだより 2023年6月

上野台小学校 学校図書館支援員

つゆ 梅雨の季節
がきました。



もうすぐ雨の季節になりますね。たくさん降るでしょうか。雨の日が続くと、気持ちがいそいでしまいがちですが、本の中では関係ありませんよ！ぜひ、いろいろな本を開いて、頭や心を元気にしてください。学校図書館で待っています。



本の苦手なものは…

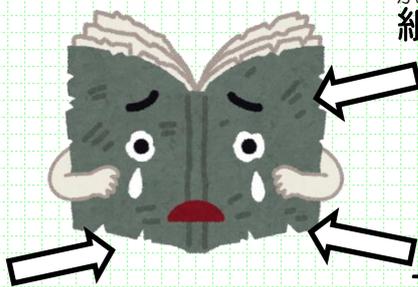
みなさんには、苦手なものがありますか？

本の苦手なものはなんですか。本は雨が最大の苦手です。

なぜかという本は水にぬれちゃうと…

やぶれる！

紙がごわごわに！



カビができる！

みなさんも雨の日には、気を付けてくださいね。

読書感想文 課題図書

読書感想文全国コンクールの課題図書が決まりました。本が届いたら、学年ごとにまわります。課題図書で応募しようかなという人は、ぜひ手に取ってみてくださいね。

★ていがくねん

『それで、いい！』

磯みゆき/作, はたこうしろう/絵, ポプラ社



きつねはショウリョウバッタを見つけて、絵をかいた。ところが、やまねこやあひるに絵のことをいろいろと言われ、絵をくしゃくしゃくにしてしまう。その後、何をかいても“これでいいのかな？”と気になるきつね。そんな時、なかよしのうさぎが…。

『よるのあいだに…』

みんなをささえるはたらく人たち』

ホリー・フェイス/文, ハリエット・ホグデイル/絵, 中井はるの/訳, BL出版



わたしたちが夜ねているあいだ、みんなのためにがんばってくれている人たちがいるんだよ。わたしのママもそのひとり。でも、夜にどんなことをしているのかな。

『けんかのたね』

ラッセル・ホーバン/作, 小宮由/訳, 大野八生/絵, 岩波書店



ある日、お父さんが家へ帰ると、犬はねこを追いかけ、4人の子もたちは大げんか。お母さんが大声をあげても止まらない。だれかが「わたしは、わるくない！だって…」と言えば、「ちがう！ぼくのせいじゃない」いったいなにがあったの？

『うまれてくるよ海のなか』

高久 奎/しゃしん, かんちくたかこ/ぶん, アリス館



海の中の魚たちには、わたしたちが知らない、おどろくようなことがかかっている！とくに、たまごを守る魚のお父さん・お母さんたちはいろいろな工夫をしています。美しい海の中を写真でみてみよう！

中学年・高学年の課題図書の紹介は、次のページです。

『**ライスボールとみそ蔵と**』

横田明子/作、塚越文雄/絵、絵本塾出版



代々続くみそ屋に生まれたジュンは、みそに興味を持たず、お父さんやおじいちゃんのアツさにもうんざり。さらに「みそっ子」とからかわれてイライラ…。ところが、同じ班になった、ロンドンから帰ってきたユキに、みそやみそ蔵を褒められて…。

『**秘密の大作戦！ フードバンク だろぼうをつかまえろ！**』

ワヅヤリ Q. ヲウ/著、千葉茂樹/訳、ｽｷﾞﾏｶｶﾖ/絵、あすなろ書房



ネルソンの家でも利用している食べ物銀行の食料が減っているらしい。誰かが食料品をだろぼうしている？ そんなの許せない！ ネルソンは友だちと協力してだろぼうをつかまえる計画をたてた！

『**化石のよぶ声がきこえる**』

レイン・ペッカー/作、サトラ・デメイ/絵、木村由莉/訳・監修、くもん出版



小さいころからステキなものを探るのが好きだったウェンディ。12歳のときに、化石を見つけてからは化石のとりこに。世界で最も優れた恐竜ハンターのひとりとして現在も活躍中のウェンディ・スロボーダの伝記絵本。

『**給食室のいちにち**』

大塚葉生/文、イシヤマアズサ/絵、少年写真新聞社



給食は、なんでこんなにおいしいのかな。それにどうやってたくさんさんの給食を作っているの？ その秘密がわかるかもしれません。小学校の給食室で働く栄養士さんと調理員さんのお仕事をのぞいてみましょう。

『**ふたりのえびす**』

高森美由紀/作、フレーベル館



お調子者キャラを演じている太一。地域の伝統芸能「えんぶり」では舞い手に選ばれたが、本当は裏方が良かったんだ。舞を一緒にするのは転校生の優希だった。練習している間、本当の自分がバレることを恐れる白々に太一は…。

『**5番レーン**』

ウツ利/作、ノインヨソ/絵、すみみ/訳、鈴木出版



水泳の大会でいつも勝っていたナルは、最近他校のライバル チョビに負けるようになってしまった。焦るナルは、勝てなかった言い訳を探してしまう。心配したコーチからは、どうして水泳をしているのか、考えてみるといいと言われて…。

『**魔女だったかもしれないわたし**』

エル・マクニル/著、榎田理絵/訳、PHP研究所



昔、「人と違う」というだけで処刑された人たちがいた。ある日の授業で、「魔女」と言われて処刑された、実在した女性たちのことを知ったアディ。自分の「人と違うところがあること」を重ね、その女性たちに、思いを寄せるようになっていく。

『**中村哲物語**』

なかむらてつものがたり 松島恵利子/著、ちようぶん社



「どの場所、どの時代でも、一番大切なのは命です」中村哲先生の言葉です。(本作より) 35年間、パキスタンやアフガニスタンで、医師としてだけでなく、井戸を掘る・用水路を作るなど、多くの人の命を救った哲先生の生涯を描いた伝記。